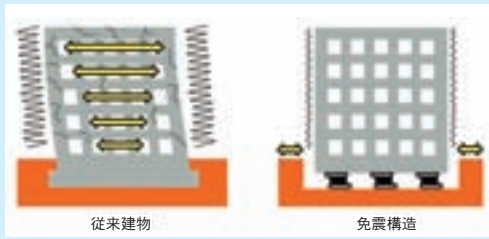
免震構造で安全・安心な庁舎

免震構造とは

地盤と建物の間に免震装置を設置し、上部の建物への地震力の伝達を抑える構造形式のこと



設計の基本方針 2 防災拠点となる安全・安心な庁舎

防災拠点施設として、耐震性を高める免震構造を採用するなど、地震・水害ほかあらゆる災害時においても機能を維持し続け、市民の安全・安心を守る自立型庁舎とします。

■防災機能の充実

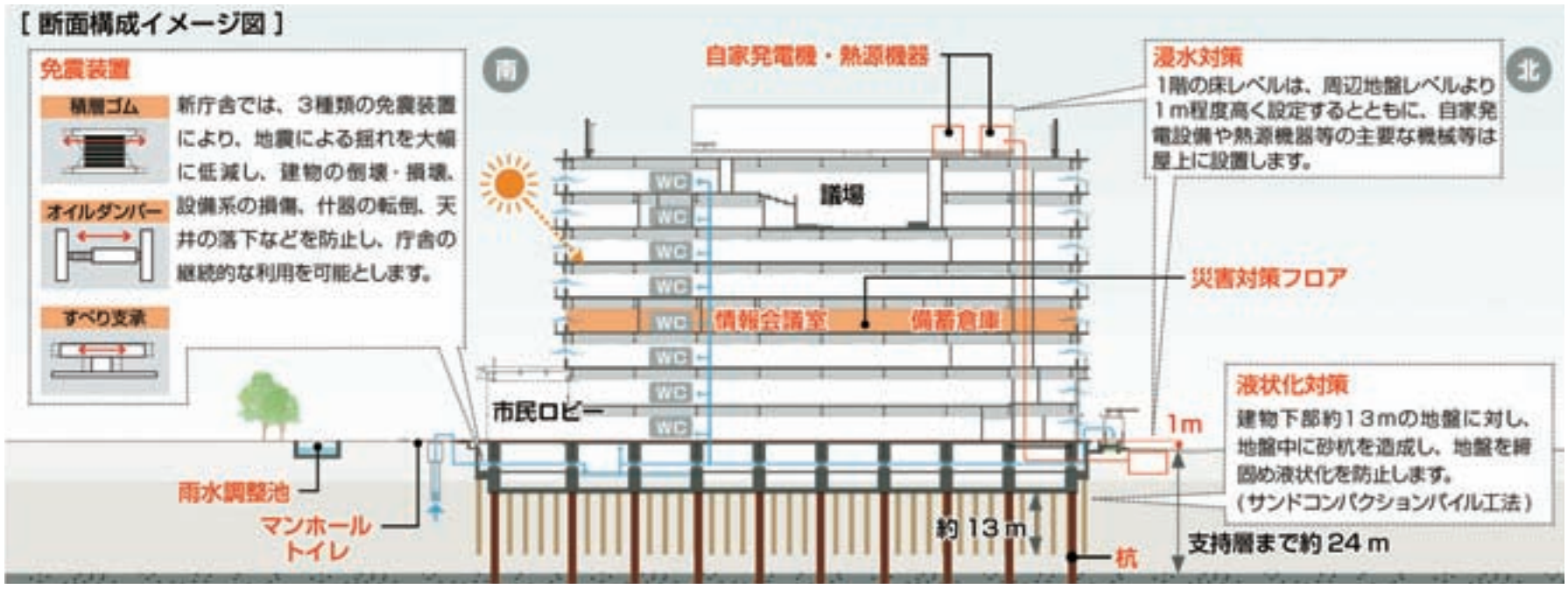
防災拠点として情報会議室（災害対策本部）を庁舎の中心（4階）に設置し、防災無線などを扱う通信室、備蓄倉庫などを同じフロアに配置します。

そのほか、建物下部の液状化対策、浸水対策など、市民の生命と財産を守る庁舎とします。

■災害時の自立化

自家発電設備や井水利用をすることにより、災害時にもライフラインが断絶せず、応急対策や復旧・復興の拠点として機能する計画とします。

また、駐車場には災害時の利用を想定し、マンホールトイレを備えます。



設計の基本方針 3 多機能で経済的な庁舎

将来の利用形態の変更に合わせて、多様な使い方ができる構造とし、長く使い続けることのできる庁舎とします。

■柔軟に対応できる空間構成

新庁舎の骨格となる構造を門型にするとともに、照明や空調を均等に配置して、将来的なレイアウト変更などに柔軟に対応できる庁舎とします。

■公園と庁舎の一体利用

新庁舎の駐車場と新丸の内公園を一体的に整備し、起伏のないフラットな駐車場とすることで、イベント広場としても活用できるようにします。

■経済的で長寿命な庁舎

ＬＥＤ照明の全館での採用、井水の有効活用など、光熱水費のかからない低コストな庁舎とします。

また、建物全周にひさし（バルコニー）を設けることにより、風雨による外装汚れを防止してメンテナンスを容易にするなど、維持管理のしやすい、長く使うことのできる建物とします。

1階多目的スペース

設計の基本方針 4 交流の場となるシンボル的な庁舎

南西から見た新庁舎の鳥瞰イメージ

本市を訪れる皆さんが気軽に休憩し、交流できる憩いの場を設け、四季の路・水門川・大垣城のほか、養老山脈や伊吹山など、地域のシンボルを見渡すことのできる庁舎とします。

■市民の交流・憩いの場となる庁舎

正面玄関を入ると、広々とした吹抜け空間があり、２階には交流の場となる“市民コミュニティスペース”を設けます。

また正面玄関の東には、ミニコンサートや作品展示など、市民活動の発表の場となる“多目的スペース”を設けるとともに、１・２階西側の窓から、新丸の内公園や水門川を一望できる空間をつくります。

■大垣のシンボルとなる庁舎

大垣の伝統・文化を感じさせる繊細な和のデザインを採り入れ、かつての城下町大垣にふさわしい庁舎とします。